

もうすぐ選挙権 Vol.5

[未来思考]

離れていても議論はできる  
～オンライン議会の可能性



大人にとっては高いハードル。子ども達は軽々と越えていく  
テレワークやリモートワークといった新しい働き方が、コロナ禍における感染予防対策の最も有効な手段として、社会全体で推進されています。総務省は、この4月、「新型コロナウイルス対策限定の措置で、地方議会の委員会をオンラインで開催可能」との見解を全国に通知しました。また一方、茨城県取手市議会は、総務省に対し、育児や介護などを抱える議員が、自宅からオンラインで本会議に出席し、審議や採決に参加できるよう法律の改正を求めた、という動きもあります。

寄居町議会では、まだタブレット導入の議論が始まったばかりではありますが、今後、オンラインの活用は災害対応や地方議員のなり手不足の解決にも有効では?!...という期待も。With コロナの時代、地方議会に求められる新たな挑戦...大人より次代を担う子ども達の方がより明確にその世界が見えているのかもしれない。



取手市議会「デモテック宣言」  
デモクラシー(民主主義)×テクノロジー(技術)



峯岸 議長の Chairman's Column

「30秒」

「人は見た目が9割」  
「第一印象が大切」  
「会って1~2分話をすれば、その人となりが分かる」

など、人間が他人を見分ける能力は案外高いのかもしれない。

今号の裏表紙。16名の議員が改選後1年経過した現在の思いを30秒で話します。

町民の皆さんとしては、地元の議員をはじめ、数名の議員とは面識があるかもしれませんが、初めて生の声を聞く議員もいるのではないのでしょうか。たった30秒かもしれませんが、選挙ポスターだけではわからない情報がここにあります。今回はあなたが一票を投じようと思った議員だけでなく、すべての議員を比較するチャンスです。

感染症対策で活動の自粛が求められる中、これも新しい議会のカタチ。

動画の中に、皆さんにとっての  
新たな発見があることを期待して。

今号のキーワード

新しい議会のカタチ

試行錯誤

議会事務局のまなざし



6月定例会は、一般質問時間の短縮、本会議出席者の削減、議席間隔を空け、休憩ごとの換気を徹底するなど、新型コロナウイルス感染症対策を施して開かれました。

事務局も新しい議会のカタチ、模索中です。

公開します [ 6月定例会 審議議案と議員の賛否 ]

Table with columns for agenda items, results (賛成/反対/除外), and individual council members (権田孝史, 保泉周平, etc.).

[陳情] 用土コミュニティセンター統廃合計画、寄居町立用土小学校統廃合計画、現計画中止及び用土地区住民との協議会設置要望について

平成20年以降の議決結果を議会ホームページで公開しています

動議 副議長の不信任案を可決

稲山議員から、慣例を遵守しないことにより議会に混乱を招いたとして、田母神副議長に対し提出されました。

※可決による法的拘束力はありません。

ギカイ★議論「討論」 反対「議員として理性・知性・品性を有し職務遂行には問題無いため不信任案に反対します(大澤議員)」

賛成「災害時に議長の補佐役として、情報収集に迅速な行動をすべきであったと考えます(佐藤議員)」